

## 携行缶によるガソリンの取扱いについて

発電機、農機具等に使用するガソリンの取扱い不注意による引火事故が発生しています。ガソリンは、引火性・着火性の高い危険物で、取扱いには細心の注意が必要です。

### 《ガソリンの特性》

- ・ ガソリンの引火点は「 $-40^{\circ}\text{C}$ 」程度と非常に低く、**静電気等**でも容易に引火します。
- ・ 揮発しやすく、その蒸気は空気より約3～4倍重いので、低い所やくぼみにたまりやすく、目には見えないため、非常に危険です。
- ・ 電気の不良導体なので、流動等の際に発生した静電気が蓄積しやすい。

### 《携行缶からの給油について》

- ・ 周囲に火の気がないことをよく確認し、人体その他に影響がない水平な場所で行なってください。また、消火器を準備してください。
- ・ 静電気による着火を防止するため、金属製容器で貯蔵するとともに地面に直接置くなど静電気の蓄積を防ぐ必要があります。
- ・ 携帯発電機や草刈機等に補給する時は、必ず運転を止める。
- ・ 給油前には、必ずエア調整ネジを緩め、缶内の圧力を調整してからキャップを取り外してください。

※キャップを一気に外すと、内圧差によるガソリンの噴出、キャップの飛び出し等による事故が起きる恐れがあり、大変危険です。



- ・ ガソリンの容器は、消防法令基準を満たした金属製容器を使用してください。
- ◎ [ガソリン携行缶の正しい使い方](#)（危険物保安技術協会）
- ◎ [福知山市花火大会火災を踏まえたイベント会場等におけるガソリンの貯蔵・取扱い時の留意事項](#)（総務省消防庁）